

* 子ども防災博士意見発表の部 *



最優秀賞 「防災自主学習のすすめ」

岩出小学校 六年 古井 桜奈さん

突然ですが、みなさんに質問です。

『防災とは、自主学習と同じである。』

そう聞いて、みなさんはどう感じますか。正直に言って、あまりピンと来ない方が多いのではないのでしょうか。実は、この言葉は私自身が、最近ある出来事から思い至ったものなのです。そのきっかけとなった出来事というのが、みなさんの記憶にも新しい、あの六月二日の台風二号の影響による大雨です。

その日の朝、私は前日から降り続く雨を見て、次の日に行われる予定の運動会の心配をしていました。

「警報、でやんかったなあ。」

「岩出市やからね。」

教室で、友達と笑いながら話していた次の時間、先生が真剣な顔でこう言いました。

「先ほど岩出市に大雨警報が発令されました。今から全校で集団下校をします。」

急な下校にとまどいながらも、私たちは急いで支度をし、帰宅しました。その後も、降り続ける雨は次第に強まり、まったく止む気配はありません。その音はいつもとはどこか違う、不気味な雰囲気を感じさせ、警報が出ないと言って笑っていた私たちの気持ちを暗く沈ませていきました。そして、その不安は、最悪の形で現実に表れてしまうのでした。

今回、和歌山に大きな被害をだした大雨による災害。調べてみると、「百年に一度よりもまれな降雨」となった地域もあったそうです。海南市では、レベル3の「高齢者避難」情報が発令されてからすぐの四分後に、レベル4の「避難指示」が発令されています。それだけ急激な川の増水と町への浸水が起きたということです。実際に私が通っているスイミングスクールも浸水の被害を受け、再開されたのは一ヶ月もたってからでした。

このように身近に起こった経験をもとに、今回、防災に関して「これは必要ではないだろうか」と私なりに考えてみたことが二つあります。

一つ目は、『その時に合った準備をしておくこと』です。台風と聞くとまず、強風による被害を連想してしまいがちですが、今回のように急激な増水をもたらす雨による被害も時として引き起こします。自然災害である以上、完全に防ぐことはできませんが、浸水に備えて土のうやポンプの準備、家財道具を二階に上げておくなどの方法を考える必要があると感じました。もちろん、これらのことはすぐにできることではありませんから、日頃から少しずつ可能な限りの準備をしていくことも大切であると思います。

二つ目は、『必要な情報を集めること』です。当然、災害の規模や地域の被害状況も大切な情報ですが、私たち小学生が注意しなければならないことという点においては『避難するタイミングと避難場所の情報』ではないかと思います。私の家では家族で話し合い、

「何か災害が起きた時は那賀高校に行く」ということを決めています。これまで、それで十分と考えていたのですが、今回の大雨による被害状況などを調べていくなかで、避難場所自体が浸水想定区域内にあるという市町村の存在を知りました。災害の規模によっては避難場所が使えない時があるかもしれませんし、そこに向かうことが逆に危険性を高めることになる場合もあるかもしれません。市内放送や配信メール、家族からの連絡や情報をもとに、避難のタイミングと避難場所をしっかりと見極めること、それこそが小学生でもできる「命を守る行動」ではないでしょうか。

『その時に合った準備をしておくこと』と『必要な情報を集めること』

私がこの二つの考えに思い至った時、ふと頭に浮かんだのは

「テスト前の自主学習と似ているな。」

ということでした。私は、テストの前日にはできる限り、自主学習をするようにしています。テスト範囲を確認し、自分の苦手としている部分をもう一度やり直すなどの準備をしながら、先生が教えてくれた重要なポイントなどの情報を集めてまとめています。どうでしょうか。防災への備えと似ているとは思いませんか。

「防災」と聞くと私たちは、少なからず身構えて、「難しい話」と考えがちです。ですが、日頃、自分たちがやっている自主学習や学習の準備の一つととらえれ

ば、ぐっと身近なものに感じませんか。

テストに備えた自主学習と防災に備えた準備。テーマは違っても、同じ「私たちにできる自主的な行動」です。

『防災自主学習のすすめ』

みなさん、「命を守るための正しい判断」を、日々の学習と同じように考え、意識を高めていきましょう。